

## 学校関係者評価報告書 令和元年度

項目	評価項目	評価結果・課題	課題・改善方策
(1) 教育理念・目標	・創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	様々なイベント参加、日常生活を通し、教育理念を徹底していることはアンケート結果から見ても評価できる。在学生と保護者が 80%以上ほぼ適切と回答していることは教育理念に沿っている。	創学の精神と教育理念、目指す「自立」に対して、時代や時流に合わせた変容を組み込みながら、意識の徹底を図っていく。
	・職業とキャリアを重視した教育がなされているか	キャリア教育に関して、自己分析で自分の性格を客観的に見つめなおすこと、適性判断で自分に向いている業種や職種を見つけ出すことは、学生達の進路選択に於いても重要である。学生本人の意欲・主体性の向上を図るよう更なる指導を行う。	来年度の改善方策としては、より深い「自分の適性」の掘り下げと、「キャリア形成計画」を立てさせることが挙げられている。それに向けた様々なツールの模索、取り入れ、活用を図っていく。
	・専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	専修学校の役割としては、実践的な教育を行い、社会に出てすぐに役立つスキルを修得させるものであると認識している。そのニーズに応えるため、実践力を養い、日々カリキュラム内容の見直しや、イベント等への参加を行っている。	社会の変容に伴い、ニーズも日々変化している。その変化を敏感にくみ取り、適宜ニーズに応えられるようカリキュラムやイベント、教育活動等に反映していくよう努める。
	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学生達だけでなく、保護者にも教育内容について周知されている。おおむね好意的なアンケート結果は、ひとえに学校の教育活動の姿勢の賜物である。今後もその理念・活動を大事にするべきである。	現在の結果に慢心することなく、引き続き伝えていくべき情報を適時適切な方法で伝え、学生・保護者からの理解を深めていく。
	・専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	専門教科である被服構成実習・被服構成理論の他、教養学・教育学等一般教科に於いても適宜教育課程編成委員会の意見を取り入れながら、カリキュラムの構成を行っている。その結果として昨年度より学生の理解度等が深まったため、引き続き学生への教育を通して人材育成に努めている。	毎年課題として挙がるのはコミュニケーション能力である。これに関しては教養学の内容を吟味し、学生が自分の意見を理論立てて説明する能力、また言い回し等の増強に努めている。またビジネスマナー等に関しても、今後強化していきたい面である。授業内容や教材を研究し、学生への教育に役立てる。
	(2) 学校運営	・校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	校務分掌の遂行についてはやや滞った部分が見受けられた。昨年度も課題として挙がっている部分でもあるため、改善が求められる。
・事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか		イベント参加については、年間スケジュールに当初から含まれていなかったイベントもあった。突発的なイベントスケジュールに関してはカリキュラムの進行などもあるため、参加の有無や時期の調整などを検討し、実行する。	事業計画に関しては、年間スケジュールとして年初に定められるものがある。突発的な外部依頼などは年間スケジュール、カリキュラムの進行と照らし合わせた上で、慎重に策定していく。
・運営組織や意思決定機能は職員		運営組織内での課題や対策について、職員間での会議を毎	職員間での会議は毎朝行うとともに、放課後等別途時間を確

	会議等で諮られて納得して十分機能しているか	朝行っているものの十分ではないと判断する。始業までという時間の関係もあるため、意思決定の機能としては課題である。	保し、十二分に理解をし、意思決定を行っていく。円滑な実行に努めるため、会議の効率化、役割の明確化を図る。
	・人事、給与に関する規程等は整備されているか	人事・給与規定は整備され、適切に行われている。各方面の意見を参考にしつつ、より良い方向への整備を目指し、十全させるべく努力した	人事・給与規定は整備されているため、今後もそれに沿って行っていく。
	・業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	地域発展、地域貢献のため、協力には積極的に取り組んでいる。ファッション業界に於いても訪問等で密接なコミュニケーションを図った。	すでに確立されている関係性の強化と同時に、新規企業の開拓を積極的に行い、学生の教育活動や進路指導にも役立てていく。
	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	HP・SNS・情報誌などでの発信を行い、適時適正な情報公開に努める他、若年層に向けての情報発信を試みている。既存のツールの内容も充実に努めるべきである	各方面における情報公開は適時適切に行っていく。内容等に関しても吟味し、インスタグラム・ツイッター等若年層向けのツールでは対象者が興味を引くよう、HP・情報誌など広く公開されるツールでは堅実に、内容の充実を図る。
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	年に二回行われる教育課程編成委員会によって、教育活動が報告・議論・評価され、カリキュラムの編成・実施方針等が策定されている。実際カリキュラム変更が行われ、教育活動内容が充実した。	年二回の教育課程編成委員会によって、今年度も内容の適正を見極め、充実を図る。また職員からも積極的な報告、提案を行うことによって、更なる充足に向けて努力していく。
	・業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	学科のカリキュラムが体系的に編成されている。天災による影響で進行に遅延が出た場合、適宜対応を行っていたが、更に適切な対処が見込まれる部分があった。	天災における公共交通機関の停止・遅延、ウィルスによる外出への不安など、くむべき事情は十分に加味した上で、カリキュラムの遅延に対しては適宜対処を行っていく。
	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教育方法、授業形態に於ける工夫を日々行っていることは評価できる。適時カリキュラムの確認と修正を行い、授業に取り入れ、教育活動に活用している。	カリキュラム進行に対しての工夫を維持しつつ、今後は遠隔授業等新規の授業形態に対しても開発を行っていくべきである。設備・施設等の整備は元より、実践的な教育が行えるよう工夫を行う。
	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	カリキュラムの作成・見直しは、年二回開催される教育課程編成委員会によって適切に行われている。また、それをカリキュラムに反映し、シラバス等の変更も適時遂行されている。	教育課程編成委員会による意見の反映の他、現場の状況等によってもカリキュラムの作成・見直しを適時適切に行っていく必要がある。
	・関連分野における実践的な職業教育(産学連携事業)は体系的に位置づけられているか	様々な関係者・分野における現状の情報収集とともに意見の収集を行い、適宜実践的な職業教育の確認・適正化を検討した。それを踏まえた実践的な職業教育をカリキュラム内で行っている。	実践的な職業教育について、今年度、更なる充実を図っていく。関係企業・関係者等からの意見収集を強化し、被服構成実習等に於いて反映していく。
	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	職業教育に対して、卒業生、企業関係者、業界関係者から広くアンケート等によって意見を募り、評価されている。	既存の卒業生、関係者等からのアンケートでの意見・情報収集を引き続き行いながら、範囲を広げて更なる意見・評価の

		意見を反映した教育内容になるよう努めている。	取入れを図る。
	・授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	授業・成績の評価に関しては明確に定められている。進級・卒業の判定基準も明文化されているため、その基準の維持・実行に努めていることは評価できる。	それぞれの評価基準・判定基準を元に、学生の指導に努めていく。また、状況や教育課程編成委員会からの意見等も鑑みながら適時見直しを行っていく。
	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	資格取得に関しては、積極的に資格を取得する意欲のある学生と、漫然と資格試験に臨んでいる学生の差が浮き彫りとなった。早い段階から将来イメージを明確化させ、資格取得に取り組むべきである。	改善の方策として、キャリア形成計画にも密接に関わっていく部分になるが、学生それぞれに自らの形成計画を立てさせ、そのために必要な資格の認識を図っていくことが挙げられている。
	・人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	昨年度課題となっていた「人材育成目標達成に向けた要件を備えた教員の確保」に対しての改善と解消が評価できる。	教員の確保に向けては今後も安定に努めていく。また人材育成目標を教員間で共有し、目標達成に向けて日々努力している。
	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	職員研修等により指導力の向上に努めていることを評価する。適宜教職員研修を行い、指導力の向上や、各自の知識・技量の増進を図っている。	研修に関しては、昨年度に引き続き、研修の内容や時期について十分に検討を重ね、授業に反映できる知識・技術の向上を行っていく。
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか	就職率がよくなり、努力の成果が見られた。だが課題として在校生アンケートから、進路・就職に関する指導・支援の充実度が挙げられた。課題として今後改善に努めるべきである。	改善方策としては、個別面談の増加が挙げられている。現代の就活状況を捉え、「キャリア形成計画」を立てさせ、就職活動の準備や手順などをあらかじめ認知させておくことによって、学生本人の意欲と主体性の育成を図り、不安の解消に努める。
	・資格取得率の向上が図られているか	「各種検定試験に積極的に挑戦しましたか」のアンケートの設問には適切 28%、ほぼ適切 56%という評価が見られる。また合格者数から、多くの学生が資格取得に向け努力していると評価できる。今後更に学生にその重要性を説き、積極的に取り組むよう指導を望む。	改善の要として、学生本人の意欲面に働きかける必要がある。資格は自分の持つ知識・技術を公的機関から保証されるものであるため、資格の必要性・重要性を学生に十二分に認知させ、資格取得に取り組んでいく姿勢の増進を試みる。
	・退学率の低減が図られているか	退学率、就職率の改善に向けた、諸先生方の努力が見られる。今後も改善に努めてほしいが、退学率に関してはどの大学・学校に於いても必ずしも0%であることはない。そのため、今後も引き続き個々の学生の事情を鑑みた指導を行うことが重要である。	改善方策として、更なる学生や保護者との面談が挙げられている。退学の事由がそれぞれに異なること、学校でサポートを行える場合と外部にサポートを委ねる場合を慎重に見極め、状況把握と改善に努める。
	・卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	卒業生の社会的な活躍は、パンフレット等によって学生にも周知されている。在校生の活躍についても広く紹介され、学生達の教育活動に有効に活用されている。	同様に卒業生の活躍についての情報収集、在校生の積極的な各種活動への参加の促進等を行っていく。また、それらの活動を資料にまとめ、より一層の周知・活用に努める。

(5) 学生支援	・進路・就職に関する指導・支援は行われているか	就職率に関しては、昨年度も課題に挙がっていたが今年度は改善が見受けられた。随時の面談や、求人情報の広い公開など、昨年度の改善に取り組んだ結果である。今後も改善に努めてほしい。	就職率が改善したことに満足せず、今年度も就職率の向上を目標として努力していく。進路・就職に対して随時面談を行う他、求人情報を見やすく整備し、本人の適性や希望に沿った企業の紹介などを積極的に行っていく。
	・学生相談に関する体制は整備されているか	学生と何回も面談を重ね、それぞれに合ったサポートを行い、外部のサポートとも連携して、寄り添う指導を行った結果が数字として表れている。今後も学生に合わせた適切なアドバイス・指導を行っていくべきである。	学生からの相談に対して、時間・曜日等を設定し、空き教室を活用するなどして相談しやすい環境づくりに努める。また相談内容に対しては、適時他の教員や校務分掌に沿った教員等と情報を共有するなどして、学生の悩み・不安の解消を図る。
	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	学生に対する経済的な支援体制については、現況の各種制度の維持とともに、新しく始まった高等教育無償化の新制度を申請し、充足が図られた。	現況で学校が用意している種々の支援の他、高等教育無償化新制度についても周知に努め、それぞれの学生が安心して学べる環境づくりに努めていく。
	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動に対する支援体制は整っており、産官学、地域とも連携している。学生に向けた課外活動の挑戦意欲の増進は今後も取り組んでいくべきである。	学生の積極性の向上に向けて、学生の意見・要望を集め、活動内容の比較・検討を行っていく。
	・保護者会と適切に連携しているか	家庭で親と子の話し合いができることはアンケート結果からも明白である。そのことから保護者会と学校が適切に連携していると評価できる。	保護者会からの理解を更に深め、各種イベント等でも現状以上の協力関係の構築に努めていく。
	・卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	同窓会組織と連携しながら、卒業生との密な連絡や情報交換を行い、卒業生の立場からの学校に対する要望や意見などを収集している。それらのニーズに応えるため、教育環境の整備を行った。	引き続き卒業生との連絡、情報交換を行い、更なる連携の強化を図る。ニーズの汲み取りを強化し、体制の整備を行っていく。
	・中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	中学生の職場体験の受け入れ、高校生の講座、家庭科教員への講座等を行った。その他、被服検定対策等の相談なども受けている。	中学・高校・高等専修学校等とも、綿密な連携を図る。また、今年度も多数の学校へのキャリア教育や職業教育の助成を行っていく
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備に関しては、対応できるよう整備されているが、今回緊急事態宣言発令下に於いては、遠隔授業等が適切にできる設備ではなかった。技術の上進を目指さなければならぬ以上、独自の対策を打ち出し、オンライン授業なども行える設備の導入を検討するべきである。	改善の方法として、天災による事業計画・年間スケジュールへの影響については、情報収集と情報の共有、学生各個人の状況に合わせた柔軟な対応に取り組んでいく。またそういったためのマニュアルの作成・共有などが挙げられている。
	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	インターンシップや研修等について、十二分に整った教育体制の提携がある。	インターンシップ先の企業の見直し・策定を適時行うとともに、学生からの希望を鑑み、教育体制の更なる充足に努めていく。
	・防災に対する体制は整備されているか	毎年防災訓練を実施し、防災意識の向上に努め、被災した場合の対処法の認知を図っている。学生一人一人が緊急の	防災に対する体制の整備を維持するとともに、防犯、公衆衛生等、必要となる設備・知識の充足に努める。

		事態にも対処できるよう指導を強化した。非常備品・避難経路の点検もこまめに行っている	
(7) 学生の受入れ募集	・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	リクルートスタディサプリーを継続し、大幅な資料請求の向上があった。だが高校等への情報提供や、認知・周知に向けては、他の対策も考えて実践していくべきである。	資料請求の向上に関しては、リクルートと連携し更なる上進を目指す。また、新規のパンフレット・資料を作成し、県内の各学校の他、スタディサプリーで資料請求があった他県の学校にも送ることで、情報提供の取組を強化していく。
	・学生募集活動は、適正に行われているか	リクルートなどのネットツールを活用し、学生募集人員を増やしたのは、学校にも働きかける良い取り組みである。取り組みの結果、オープンスクールに於ける来校者の増加があったが、入学者増加に対しては、まだまだ改善の余地がある。	外部からの入学希望者が増加している部分は引き続き増強していく。今後の方策としては、来校したとき進学を決める決め手となる説明の十全を図る。またリクルートで新規ツールの導入し、今まで以上に魅力発信や学校生活の充実度を伝え、入学生獲得に向けて大いに活用していく。
	・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	各種の資格取得率や就職状況、教育成果等、様々なツールで資料を用意し、各方面での周知に努めた。教育成果等についても高校訪問時に担当者から進路指導担当教員へ十分に説明を行い、更なる充足を図った。	今年度も同様に資料の作成、各方面の周知に努めていく。更に改善の方策として、高校の進路指導担当教員から、必要となる情報の聞き取りを行い、都度資料の改善・質の向上を図っていく。
	・学納金は妥当なものとなっているか	関係部門で検討したうえで理事会において諮り、学納金の金額を決定する。学費が妥当なものとなるよう十二分に熟思し、学納金の金額を決定しているため、適正かつ妥当なものとなっている。	時勢や時流、学生の家庭状況等様々な情報を収集し、分析した上で、適正、妥当であるか、見直しと熟考を重ねていく。
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	安定しているが、中長期的に考えた上で取り組むべき課題もある。消費節約に意を払い、入学生の増加を図り、収入の増加に努めた。	消費節約、入学生の増加、収入の増加を試みる。様々な面から課題対策を徹底して行っていくことで、財務基盤の更なる安定化を目指す。
	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	理事会・評議員会において、適宜確認を行っており、有効かつ妥当である。	努力目標を定め、努めていく
	・財務について会計監査が適正に行われているか	財務について会計監査が適正に行われている。	努力目標を定め、努めていく
	・財務情報公開の体制整備はできているか	財務の情報公開体制整備はできている。	努力目標を定め、努めていく
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	監督省庁の許認可を受け、適正かつ適切に学校運営がなされている。	努力目標を定め、努めていく。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学生・関係者等の個人情報の取り扱いについて十分に注意を払い、書類・データとも適切に管理され、保護されている。	日々個人情報保護法等の理解・徹底に努め、個人情報管理の強化を行っていく。
	・自己評価の実施と問題点の改善	自己評価への学校関係者評価委員会からの評価を経て、問	今後も同様に適宜公開に向けた自己評価・問題点の改善に意

	を行い、自己評価結果を公開しているか	題点の見直し、改善方策の立案などを行い、適宜公開に努めている。	欲的に取り組んでいく。
(10) 社会貢献・地域貢献	・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア活動を行い、地域社会への貢献を行ったことを評価する。	地域と関連したボランティア活動を行い、学生のボランティアに対する意識付け、意欲増進を行っていく。
	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか	地域に対する公開講座を開催し、教育内容の周知に努めた。地域や地元企業から依頼されたことへ、真摯に取り組む姿勢、責任ある対応を評価する。	地域からの依頼に対応したイベント参加については、コロナウイルスの流行状況等も鑑み、慎重に参加の有無を決定していく。
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	留学生の募集活動に努めているが、震災後受入れがなされていない状況である。今回のコロナ禍の状況を鑑みつつ、募集を行っていく。	広範的な募集活動に努め、留学生の招致を試みる。